

[翻訳]

私を知っている中央アジアのドゥンガン人¹⁾

穆 淑 恵²⁾
訳：苗 婧
訳注：犬 塚 優 司³⁾

20世紀60年代の初めに、未だ旧ソ連時代だったのですが、私の夫胡振華からドゥンガン人の話を聞いたことがあります。すなわち、中央アジアに住んでいるドゥンガン人は19世紀の後半に、武装蜂起の失敗により、中国の西北地域からやむを得ず移住させられた回族⁴⁾の後裔ということです。しかし、ドゥンガン人はどのような顔つきなのか、どのような服装をしているのか、食文化がまだ中国の回族に似ているのか、住宅が洋風の建物なのか、それとも粘土で築き上げた家なのか、言語が未だ残されているのか、当地の異民族との関係がどうなのか、この民族の学校があるのか、などいろいろな質問の答えを、私は知りませんでした。

幸いなことに、胡振華は1989年の春にソ連キルギス共和国の科学院に招かれて訪問し、同時に私も招待されました。このため、私は胡振華と一緒に中央アジア地域に行くチャンスを得て、自分の目でドゥンガン族の全貌を見、自分の耳でドゥンガン人の言語を聞くことができました。この20数年の間に、私と胡振華は何度も招待されて、中央アジアの各国に訪問して⁵⁾、フィールドワークを行い、また、北京の家でも、数え切れないほど多くのドゥンガン人のお客さんを接待しました。私たち2人はドゥンガン族に関する資料を大量に収集しましたが、さらに重要なことは、ドゥンガン族の感性を理解し、ドゥンガン族に親しみを感じるようになったことです。

私は中央アジアのドゥンガン族研究の専門家ではなく、ただ胡振華の一助手でしかありません。ここで、私を知っている中央アジアドゥンガン人についてご紹介します。

中国の回族の民族形成の起源は多元的で、主として元代に中央アジアや新疆などからやってきた各民族から成っています。その各民族の人々の後裔である回族は、長年周りの漢族、モンゴル族、ウイグル族などの諸民族と婚姻を結んだために、形質人類学的特徴の面において、少なからず変化はありましたが、多くの回族の人々には明らかな体質的な特徴が残っています。具体的には、男性は濃い眉毛に大きな目を持ち、瞳が主に褐色か薄い青で、鼻が高く、ひげが濃く、背が比較的高く、体つきが頑丈です。一方、女性は肌が白くてきめ細かく、二重まぶたが多く、鼻が細く高く、均整の取れた体格をしています。ドゥンガン人は中央アジアに移住して、すでに130年を経て、その間に、当地のカザフ、キルギス、ウズベク、ウイグル、タタール、ロシアなどの諸民族と通婚しましたが、総体的に言えば中国の回族の人の顔つきと同じです。

ドゥンガン人は清代末期に中央アジアに移住したので、当時の服装、特に女性の服装を中央アジアにもたらし、それを保存してきました。1989年に初めてドゥンガンのコルホー

ズへ訪問に行った時に、当地の結婚式に招かれました。その時、新婦は、清代満州族女性のように、花の模様の刺繍がある丈がひざの下まで来る服を着て、ズボンのすそはひもできくり、足には刺繍した靴を履いていました。お祝いに来た若い女性たちは満州族式のチャイナドレスを着て、手にいくつもの金の指輪をはめ、首に金のネックレスをしていました。新郎の服装はすでに清代の様式ではなく、洋服に換わっていましたが、頭に礼帽をかぶっており、赤い袴2本を交差して身につけるという中国回族の風習を維持していました。普段、ダウンガン人の服装は当地の各民族と大差ありません。男性はほとんど洋服を着ています。女性の多くはワンピースを着て、さらに上に濃い色の上着や裏地のある厚いベストを着る人もいますが、みな頭に独特なスカーフをかぶっています。年配の女性が白くて長いスカーフをかぶっているのに対して、若い女性は色のついたスカーフをかぶっています。今日、ダウンガン人の服装は時代に従って発展してきたため、結婚式に参加する時や当地の博物館でしか伝統的な女性の服装を見ることはできません。

中央アジアにいた時、私たち2人はいろいろなダウンガン人に招かれて、家庭を訪ねた際は、手厚いもてなしを受けました。民族学調査の視角から見れば、結婚式への参加と家庭への訪問は、ある民族、ある地域の習俗を理解するための最もいいチャンスです。招きに受けダウンガン人の家へ訪ねに行けば行くほど、ダウンガン人の習俗に対する理解も深まってきました。食文化から見れば、ダウンガン人は未だ中国西北の回族の習慣を維持しており、普段は麺（小麦粉で作った食品）を主食にしています。例を挙げると、マントー、ラグメン、タンメン、パオズ⁶⁾や餃子などです。祝日になると伝統的なサンズ⁷⁾を食べます。一方、中央アジア各民族が好きなピラフ⁸⁾、ナン⁹⁾を食べたり、カザフ、キルギス等の諸民族が好きなナーレン（シパルマクとも言う）¹⁰⁾及びロシア人が好きなパンも食べたりします。ダウンガン人は麺（小麦粉で作った食品）を主食にするため、おかずを気を配っており、普段の家庭料理におかずとスープが不可欠です。ダウンガン人はお客さんを接待するとか、結婚式を行う時には、伝統的な「宴席」の基準で行います。つまり、「8個の大皿に盛った料理」または「8個のお皿に盛った料理」と呼ばれる豪華な宴席です。都市に住んでいるダウンガン人は当地の人と同じように、朝はパン、ナンとジャムを食べたり、ミルクティーや牛乳を飲んだりします。つまり、ダウンガン人の食習慣は、特に祝日のための回族の習慣が一部維持されている以外は、居住状況や周辺環境の変化に伴って発展しているのです。

ある民族、あるいはある地域共同体の民家の特徴を研究するためには、農村に入りこむのが一番いい方法です。なぜかというと、大中都市の家屋は高いビルが多いので、はっきりとした特色がないからです。私たちはたびたび中央アジアの農村地域に入り込んで、ダウンガン族の民家にはやはり特色があると分かりました。その1つの特色は、全ての民家にいくつかの比較的広い部屋や、広い中庭があり、中庭の扉は高く大きく、ほとんどが緑色です。中庭にある大きな日覆いは台所で、後庭に果樹と野菜が植えられていることがよくあります。もう1つの特色は、家の外観はロシア人、カザフ人及びキルギス人と同じで、屋根は両側が低くて真ん中が高いというデザインで、トタンで屋根をつくっています。壁は日干しれんがが焼きれんがができていて、ガラスの窓の外側は木製の雨戸で覆われています。部屋の中にオンドルがあって、オンドルの上に低い机を置いて、毛氈か毛布を敷いており、壁にはタペストリーを掛けています。また、お客さんを接待するために、鉄製

のベッドが用意されています。ドゥンガン人の民家は自民族の伝統形式を維持しつつ、他民族の形式をも受け入れているのです。都市に住んでいるドゥンガン人の室内装飾はほかの民族と、あまり差がないようです。

ドゥンガン人の言語については、初めて中央アジアドゥンガン地域に来たときに、あまり聞き取れず、話すのもなかなか慣れませんでした。その発音は中国西北地域の中国語方言に似ており、中国でかつて使われた古い中国語の語彙や、ロシア、カザフやキルギスなどの言語から取り入れた借用語もありました。会話においては、把字句¹⁾と倒置文が中国語の普通話より多く使用されています。中央アジアドゥンガン人の言葉は中国新疆イリ市あたりの回族の人々が話す言葉に似ているような気がします。カザフスタンのいわゆる「陝西村」あたり、キルギスのイルドイク及びウズベキスタンのタシケント近郊に住んでいるドゥンガン人には陝西なまりがあって、キルギスのソクルク及びカザフスタンのドゥンガノフカなどに住んでいるドゥンガン人には甘粛なまりがあります。それは、そのドゥンガン人たちの先祖が中国の陝西省や甘粛省から移住してきたためです。ある言語学者の研究によれば、ドゥンガン語は中国語陝西・甘粛方言の国外の変異体で、中国語と並行する新たな言語といえるまでには発展していないそうです。ドゥンガン人はスラブ文字字母に基づいて文字を創って、新聞や本も出版しています。毎週、国家ラジオ放送局によりドゥンガン語番組が放送されています。ドゥンガン人の村には、ドゥンガン語で授業を行っている小学校、中学校もあります。ドゥンガン語は、140年以上前の中国西北地域の中国語の特徴を維持しており、同時に、この130年の間にロシア語や中央アジア諸国の言語から受けていた影響により生じた変化もあるので、学術的研究にとっても高い価値を持っています。そして、ドゥンガン人は数多くの民間文学資料や宗教的・文化的な習俗も残しているので、これもまた研究する価値があります。

140年以上前に、中央アジアの諸民族は、やむを得ず移住してきたドゥンガン人をとても快く迎え、ドゥンガン人は中央アジアの諸民族と今までずっと友好関係を保っています。このような民族関係のおかげで、ドゥンガン人は発展のチャンスを得て、現在、皆幸せな生活をしているのです。

1989年から、私はたびたび中央アジアを訪ねて、ドゥンガン人に対する理解を深めることになりました。私が知っているドゥンガン人について、まとめてみると、以下の4点になります。

- 1 ドゥンガン人は非常に勤勉で、苦勞によく耐えられる民族です。彼らが多くの荒地をオアシスに変えました。
- 2 ドゥンガン人は様々な環境に順応する能力が高くて、他民族の長所を学んで、取り入れることによって、自分たちを発展させました。
- 3 ドゥンガン人は先祖の伝統を保ちながら、社会の発展に従って、その伝統を発展させました。
- 4 ドゥンガン人は新しい祖国で、当地の各民族と友好関係を保ちながら、かつての故郷にも深い思いを持っています。彼らは中国と中央アジア諸国の間の友好の使者、友好の架け橋となり、双方の友情の増進に貢献しています。

訳注

- 1) 本文は、2013年11月鳥根県立大学で開催された鳥根県立大学ダウンガン学研究会において発表された発表原稿の日本語訳である。原文の題名は、《我所了解的中亚东干人》である。張定京主編『中亜民族語言文化研究－中央民族大学建校60周年胡振華教授誕辰80周年“2011中亜民族語言文化論壇”論文集』（2012年、中央民族大学出版社、pp. 237-39）に掲載された同名の文章に加筆修正したものである。なお、鳥根県立大学ダウンガン学研究会開催について、鳥根県立大学平成25年度学術教育研究特別助成金の助成を受けた。
- 2) 穆淑恵先生は、1933年山東省滄州市生まれ。中央民族大学胡振華教授夫人。1955年北京回民学院師範専攻卒業。1956年から内蒙古自治区呼和浩特市回民小学校の教員となり、その後副校長、1960年から校長を務める。1964年から、中央民族大学附属小学校の教員となり、その後副校長、1969年から校長を務める。1981年から中央民族大学老幹部処に勤務し、1993年退職。
- 3) 本訳文は、苗が原文を日本語に翻訳した後、犬塚が手直しを行った。訳注は犬塚が付した。
- 4) 1873年「回民蜂起」が、清の左宗棠軍の肅州攻略により終わった後、白彦虎に率いられた陝西回民の軍隊は新疆に逃れ、新疆での反乱に参加した。しかし、1877年新疆全体を制圧した清軍に追われ、白彦虎と彼に率いられた五千名あまりの軍隊は、ロシア帝国領であった中央アジアに逃れた。
- 5) 穆淑恵先生は、1989年、1993年、1997年、1999年、2002年、2003年胡振華教授とともに、中央アジア諸国を訪問している。
- 6) マントーは中華蒸しパン、ラグメンは手延べのうどんのような麺を茹でて、野菜や肉を炒めた具を乗せた料理、タンメンはうどんのような麺にスープをかけ炒めた野菜や肉を入れた料理、パオズは中華まんじゅうのことである。
- 7) サンズは小麦粉をこねて細く伸ばし、何本かをより合わせて油で揚げた食べ物。
- 8) ピラフは羊肉や野菜などを入れて作った焼き飯。
- 9) ナンは小麦粉をこねて発酵させ、円形状にしたものを炉の内側に張りつけて焼いた食べ物。
- 10) ナーレンは平たい麺を羊肉、たまねぎやにんじんなどをにんにくと油で炒めた料理。
- 11) 把字句は、“她关上那扇门了。”（彼女はあのドアを閉めた。）に対して“她把那扇门关上了。”（彼女はあのドアを閉めた。）のように、目的語となる名詞句が“把”を前置する前置詞句となって動詞の前に置かれる構文である。動詞が表す動作によって、目的語となる名詞句が表すものに、何らかの作用を及ぼすことを表す。中国語普通話では、この構文は目的語となる名詞句が特定のものである、動詞に何らかの結果を表す要素があるなどの一定の条件に当てはまる場合のみ使用が可能である。

キーワード：ダウンガン人

(MIAO Jing, INUZUKA Yuji)